

## 【デッサン部門】

### テーマ：《リサイクル（再生）》

#### 【講評】 デッサン部門

「リサイクル（再生）」というテーマでのデッサン公募でした。今回も、33点に及ぶ多数の応募をいただきました。テーマに基づき、捨てられるものと、それを原料として新しく再生されたものをモチーフとして構成し、それをデッサンするというパターンが大半でした。

リサイクルの最も象徴的な物としては、ペットボトルや牛乳パック、古紙、古着などが思い浮かびます。出品作品の多くがそれらをモチーフとして描かれています。モチーフの選択と構成にもう一ひねりあってもよいのではないかと感じました。

リサイクルとイラスト部門のテーマであったリメイクを取り違えている方もありました。テーマを設定しての公募ですので、先ずそのテーマについていろいろ調べてみることにスタートではないかと思えます。

作品自体につきましては、廃材として古くつぶれたものと再生され新しい価値を持った物の対比をどうとらえるのかが一つのポイントになろうかと思えます。

入賞作品に関しましては、残念ながら今回は金賞の該当者は無しということで、つぶれたペットボトルを克明に描き上げたデッサンを「銀賞」に、次点を「ゆかり賞」、そしてテーマ性を重視して様々なものを再構成して描いた中学生に今後の取り組みを期待して「奨励賞」としました。

銀賞の猪俣さんの作品はオーソドックスな描き方でこじんまりとまとまってしまった感がありますが、対象をしっかりと観察して丁寧に描かれており、構図もモチーフをうまく収めています。「ゆかり賞」の下川さんは対象をはみ出すくらいに大きく迫力満点に捉えています。ただ、大きく描きすぎたのか、実物以上に巨大なペットボトルに見えてしまうのが残念です。デッサンは対象の大きさを感じ取れるような描き方を工夫することが大切です。他の応募作品も良い感性を感じられるものが多くありました。

デッサンは、対象をそっくり上手に描くことだけが目的ではありません。観察する眼を養い、真実を描くことです。そして、そこに良い意味での「嘘」を加えることでそれがその作品の個性になります。デッサンの技術は枚数を重ねることで必ず上達します。これからも是非頑張ってください。

デザインコンペ 2022 デッサン部門審査員  
山口学芸大学 武田雅行

テーマ：《リサイクル（再生）》

● 評価の観点

【評価項目】

- ・ 課題条件を満たし、テーマに沿ったイメージが的確に表現できているか。
- ・ 画面構成に工夫がみられるか。
- ・ よく観察し、しっかりと描き込まれているか。